

令和6年第1回春日井市いじめ・不登校対策協議会

1 開催日時

令和6年6月19日（水曜日）午後3時から午後4時30分

2 開催場所

市役所9階 教育委員会室

3 出席者

委員 願興寺礼子、伊藤治彦、山口 力、窪野明子、横井隆一、神戸研人、野見山日向、吉田眞、安藤 透、伊藤 仁、原田宗敏、酒井はるみ

教育長 児島 靖

事務局 森本邦博、前原 敦、梶田英男、石川和男、山崎俊介、渡辺えみ、三浦敬一朗

欠席者 今井裕次、古賀 治

4 議題

- (1) 令和5年度いじめ・不登校対策協議会事業報告
令和6年度いじめ・不登校対策協議会事業計画
- (2) いじめ・不登校についての状況報告及び意見交換

5 議事内容

- (1) 令和5年度いじめ・不登校対策協議会事業報告
令和6年度いじめ・不登校対策協議会事業計画

【事務局】 資料に基づき説明

- (2) いじめ・不登校についての状況報告及び意見交換

【願興寺会長】 いじめ不登校相談の内容や特徴について教えて欲しい。

【吉田委員】 不登校の相談は令和4年度が200件で令和5年度が202件となっており、相談件数にあまり変化はない。最近では、保護者の中で学校に無理に行かせないという考えが浸透してきている。しかし、休養のため学校を休ませた後、引きこもりなど、社会に出られるか不安を訴える保護者からの相談が多い。

次にいじめについて、令和4年度が13件で令和5年度が11件となっている。内容については、学校にいじめの相談をしたものの、学校から「よくあること」と返されるなど、困って学校に相談した保護者に、学校が寄り添えていないものがある。

保護者の不安は子どもにも伝わるため、学校が保護者や子どもの気持ちに寄り添って共にいじめや不登校について考えていく姿勢が重要だと感じる。

【願興寺会長】 登校支援室の現状及び登校支援室に通う生徒への接し方について教えて欲しい。

【安藤委員】 登校支援室の現状について、令和6年6月初旬の登校支援室利用生徒数は15校で204名となっている。その中でほぼ毎日登校支援室に登校できている生徒が約28%、週2～3日の登校が約26%となっている。昨年度は5月で176名の利用があったが2月には270名に増えていることから、今年度も増えていくことが予想される。

支援員については全体で47名が配置されている。今年度も生徒が安心して過ごせる居場所を目指していく。

【伊藤委員】 登校支援室に通う生徒への接し方については、6つの立場の教員がそれぞれの役割で関わっている。1つ目はコーディネーターで、登校支援室運営の中心となる教員であり、主に校務主任が担当している。役割としては、支援員や教員、生徒、保護者の相談対応がある。また、様々な教職員と情報共有し、生徒個々の支援方法を検討している。2つ目は担当教員と呼ばれる教員で、支援室で1時間毎に支援担当者として割り振られた教員である。生徒から自主学習で出た質問に応え、寄り添って学習支援を行うこと、ゲームや遊びを通して人間関係を構築することが主な役割となっている。3つ目は担任で、行事の参加手続き、給食の手配、進路指導、教育相談、提出書類の受け渡し等、多岐に渡り学級復帰に向けて動いている。4つ目は生徒の所属する学年の先生で、オンライン授業の参加の手配や遅刻、早退、欠席の際の保護者からの連絡対応等で活躍している。5つ目は学年主任で、担任の先生のサポート役として全ての教育活動の場面で関わりを持っている。最後に6つ目は養護教諭で、生徒の心の健康のチェックや生徒からの相談に乗っている。様々な立場の先生が生徒の意思と判断を尊重し、チーム支援という形で関わっている。

【願興寺会長】 あすなろの現状について教えて欲しい。

【伊藤副会長】 あすなろは中学校に登校支援室ができたことで、中学生の保護者からの相談は減っている。あすなろでは勉強はもちろん、遠足や校外学習等の行事にも力を入れている。そしてコミュニケーションをとるためのふれあいタイムを毎日設けており、コミュニケーション能力の向上に努めている。

相談では、あすなろや相談室、登校支援室がどのような場所かわからずに不安を抱いていたり、特別な目で見られたくないという不安から行きたくないという声を聞くことがある。子どもや保護者に具体的に知ってもらうためにも、それぞれの魅力を発信していきたい。また、先生方の声掛けが子どもにとって励みになることから、子どもの在籍校の先生方にもあすなろへ足を運んでいただきたい。

最後に、あすなろには学校を卒業した子どもがテスト勉強や運動、人生相談に来ることがある。子どもにとって居心地のいい場所として機能していると感じる。

【願興寺会長】 家庭教育コーディネーターの取り組みや状況について教えて欲しい。

【横井委員】 不登校の児童生徒の家に教育分野を目指す学生ボランティアと共に訪問し、学生ボランティアは本人と遊びや勉強を通してコミュニケーションを図り、コーディネーターは保護者の相談に乗っている。昨年度は5名の不登校生徒から始まり、年度末までに10名の子どもたちと接してきた。

今年度は10名から始まるが、今後増加することが予想される。不登校の状況について各校を回り、校長先生と情報共有を行っている。併せて学期に1回、登校支援室指導員、あすなろの指導員、指導主事、SSWが参加する不登校対策ネットワーク会議を開催し、情報共有を図っている。

昨年度はほとんどの学校で1年を通して不登校者数が増えたが、今年度学校を回り、昨年度教室に入れなかった子どもが4月、5月は頑張って教室に入っていると聞いている。不登校の原因に集団への不適応があることから、4月にクラスの環境がリセットされることが子どもにとってプラスに働いていると感じる。

今年度は心の教室相談員の常勤数が増えたことで、いくつかの小学校で相談室が登校支援室のように機能し、登校日数が増えた児童がいる。小学校にも登校支援室のような居場所を必要としている児童がいると感じる。

【願興寺会長】 スクールカウンセラーの相談活動における児童生徒や保護者の状況について教えて欲しい。

【山口委員】 別の自治体で登校支援室のある小学校に勤務している。20名ほどが登録しており、児童の居場所になり、支援室から教室に行き授業を受ける等、居場所として有効に機能していると感じる。

今年の4、5月の特徴としては、中学3年の生徒が登校復帰していないことが挙げられる。原因として専修学校等、様々な形態の高校が増えていることや、主治医が無理に登校させることを勧めない場合もあり、3年生に進級するタイミングまでに心や体を養うことができなかったことなどが考えられる。この点を意識して先生も対応することが重要だと感じる。

学校によっては不登校者数が全校生徒の10%を超える学校も増えてきている。働き方改革で時間外に電話に出られない状況もあって不登校への対応が難しくなっており、その中で保護者や子どもも登校を諦めてしまっていると感じる。今後どのような対応をしていくか、考えて行く必要がある。

また、昨年からの傾向で、子どもも保護者もカウンセラーに繋がらないといった状況がある。問題に直面することを避けるケースや、被害者意識が強く、被害者という立場に留まることで、前に進めないケースがある。これからも心を育てていく必要があると感じている。

最後に、いじめについて人権集会などでいじめについて具体的な事例を挙げて子どもに問い、いじめについて皆で考えることで、予防や防止に繋がると感じる。また、いじめの加害者に悪いことだと思わずやっている子どももいるので、なぜいじめをしてしまうかといった加害者の気持ちを捉える講話を、カウンセラーが行っていければと感じる。

【願興寺会長】 名古屋法務局の取り組みといじめ相談について教えて欲しい。

【野見山委員】 法務局では人権擁護機関として、子どもの人権を重点事項として取り組んでいる。人権SOSミニレターは学校におけるいじめや体罰、家庭内の虐待等の問題に対して全国の小中学生に封筒と便せんを配布し、相談内容を書いてポストに投函すると最寄りの法務局に届くというものである。ミニレターを通して先生や保護者にも相談できない子どもの悩みを把握し、学校や関係機関と連携を図りながら子どもの人権問題の解決に当たっている。昨年度は春日井市内の小中学校の子どもから計20通のミニレターが届いた。人権上重大な事案については学校に情報提供を行っており、学校に情報提供した事案は保護者からの暴言暴力が1件、親子関係が1件で計2件であった。また、20通のうち、学校でのいじめに関するものは暴力が2件、言葉によるものが3件、その他が1件で計6件であった。引き続き、啓発活動に努めていく。

【願興寺会長】 市内の警察の対応で子どものいじめや不登校への影響について教えて欲しい。

【窪野委員】 昨年の愛知県下における刑法犯少年の検挙補導人員は1,696名で、昨年に比べ342名増加している。内容としてはオートバイ盗、自転車盗、万引き、占有離脱物横領が5割を占めている。また、特別法犯の検挙補導人員については416名で、昨年と比較し4名減少している。春日井市ではいなかったものの、大麻による検挙補導人員は72名と過去最高になっている。春日井市内の少年非行については刑法犯、特別法犯による検挙補導件数は63名となっており、昨年と比較して12名増加している。

令和5年の春日井市における補導件数は1,821名で、愛知県下で最も多い。深夜徘徊が大多数を占めている。補導後、子どもたちに連絡をするが、学校に行く時間帯でも寝ていることがあり、登校する意欲がないことが窺える。また、保護者に連絡をしても繋がらないことがある。中には春日井警察署を着信拒否にしていると思われる事例もある。

不良行為グループは不良行為や深夜徘徊が日課となっており、同じ子どもたちが毎晩のように補導され、ここからも学校に行っていないことが推測される。そのため、子どもたちには積極的に働きかけていきたい。

【願興寺会長】 市内の小中学校の現状及びいじめ不登校の対応について教えて欲しい。

【原田委員】 現在春日井市内の約7割の小中学校が不登校の対応に苦慮している。また、一部の学校では授業中の離席や、授業妨害等の問題行為にも苦慮している。学校外での問題行動も増加傾向にあり、市内の大型商業施設やSNSで他校と繋がりを持ち、問題行動に発展することがある。

次にいじめについては各校のいじめ防止対策基本方針に基づき、きめ細かな情報把握やいじめの早期発見、いじめが発生した場合の迅速で組織的な対応に努めている。

続いて不登校については、学校全体で連携し、保護者とも密に連絡を取り、スクールカウンセラーやあすなろ教室等の関係機関と協力して支援を行っている。また、中学校には登校支援室があり、生徒が安心して学校生活を送れるようコーディネーターや支援員、教職員が連携して支援している。今後も様々な視点で子どもを見つめ、いじめや不登校といった問題に取り組んでいきたい。

【願興寺会長】 保健室での相談状況について教えて欲しい。

【酒井委員】 コロナが収束し保健室を利用する子どもが増えている。身体的な症状やケガで来室する生徒が多いが、聞き取りの中で困りや悩みを訴えることが多い。話を聞きながら気持ちを受け止めた上で、生徒に寄り添った支援を考えながら担任に繋げたり、担任から保護者に状況を伝えている。生徒の悩みや困りの内容によってはスクールカウンセラーに繋ぐことを提案するが、カウンセリングを断るなど支援に繋がらない生徒も多にいる。

今年度入学した1年生は今までと比較して幼い印象を受ける。嫌なことから逃げてしまい、頑張れない、関わって欲しい、思いを聞いてもらいたい要求が強い、また、緊張に耐えられないといった生徒が多いと感じる。保健室には担任の先生が忙しく、思いを聞いてもらう時間がないため気持ちを受け止めてもらいたい、自分のことを認めて欲しい、保健室なら何とかしてくれる、といった目的で来室する生徒がいる。

保健室は心や体の健康を取り扱っており、子どもが来やすい場所となっている。養護教諭はそのような利点を活用し、生徒たちが安心できる居場所として、生徒と信頼関係を築きながら支えていきたい。

【願興寺会長】 保護者、PTA 役員の立場で学校の様子について意見はあるか。

【神戸委員】 いじめ不登校については早期解決が重要である。スクールサインはその早期解決に繋がるツールの一つとして機能していると感じる。自分の子どもに聞いても知っており、スクールサインでの相談数が上がっていることから、周知され、子どもたちのニーズも満たしていると感じる。今の時代の子どもたちは実際に会うリアルな友達と LINE 等の SNS で繋がっているバーチャルな友達が両立して自然に存在している。リアル面では先生や支援者が子どもたちと直接対応し、バーチャル面ではスクールサインがサポートツールの一つとして機能していくと感じる。

また、春日井市小中学校PTA連絡協議会内では、子どもは先生に話を聞いてもらうだけでも気持ちが楽になり、トラブルの早期解決にも繋がることから、先生の働く環境を整え、子どもたちと向き合う余裕を作りたいと意見が出ている。

【願興寺会長】 各校の先生方にも関係機関の機能や取り組みについて研修等を通じて周知することで、支援が繋がりにくい子ども達に支援が繋がる可能性が上がると感じる。様々な議題について話し合ったことを活用し、子どもたちへの支援に役立てて欲しい。

上記のとおり、令和6年度第1回春日井市いじめ・不登校対策協議会の経過及びその結果を明確にするために、この議事録を作成し、会長及び会長が指名する者が署名する。

令和6年 9月 13日

春日井市いじめ・不登校対策協議会
会長 願興寺 礼子

副会長 伊藤 治彦